

## Results for Publication JP07110084

help

2 matches found

Displaying results 1 - 2 of 2

Add  selected items  all 2 items to Work File: Create new Work File

PDF	<input type="checkbox"/>	Publication	Title (To sort a column, click label at top)	Pub. Date
	<input type="checkbox"/>	Abstract		
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	JP07110084B4		1995-11-22
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	JP07110084A2	<b>MECHANICAL TYPE PIPE FITTING</b> PURPOSE: To provide a mechanical type relatively miniaturized and light fitting for connecting pipes, with which a connected pipe end is corrosion resistant and which can be easily manufactured.	1995-04-25

CONSTITUTION: Using cast material for JISB2301 screwed type malleable cast iron made pipe fittings of nominal dimensions larger one rank than that of a lining steel pipe to be connected, a mechanical type pipe fitting comprises a fitting body 10 which is provided with a male screw in the outer face of an end section, a packing chamber 12 in the end section, and a resin made pipe end corrosion resistant core in the inner face of the fitting body 10, the packing 20 secured in the packing chamber 12, the biting type member 22, which is secured in the end section side of the packing 20, and a nut 30 which presses the packing 20 and biting type member 22 to the outer face of a connecting pipe, threadedly engaged with the male screw of the fitting body 10.

COPYRIGHT: (C)1995,JPO

Order selected items as  PDF

Show:  Thumbnail  Title  Derwent Title  Abstract  Assignee Sort by: Pub. Date  
 Pub. Date  Filed  Priority Date  IPC Code  [Check all]

Items per page: 20

 [Printer-friendly version](#)

**Legend** Click  or  to download the PDF of the full scanned document

 — Free for US, EP and WO  — \$3.00 for National Collections

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平7-110084

(43)公開日 平成7年(1995)4月25日

(51)Int.Cl.<sup>6</sup>  
F 16 L 19/08  
58/18

識別記号

府内整理番号

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数2 O.L (全4頁)

(21)出願番号

特願平5-254441

(22)出願日

平成5年(1993)10月12日

(71)出願人 000005083

日立金属株式会社

東京都千代田区丸の内2丁目1番2号

(72)発明者 加藤 一三

三重県桑名市大福2番地日立金属株式会社

桑名工場内

(72)発明者 荒木 倭

三重県桑名市大福2番地日立金属株式会社

桑名工場内

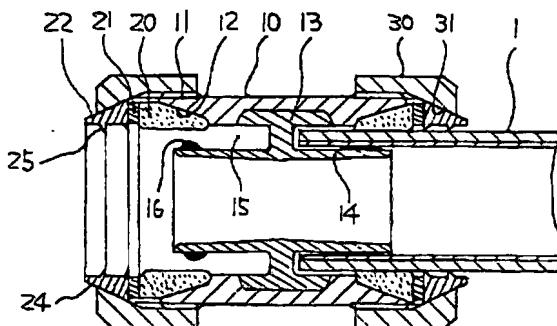
(74)代理人 弁理士 大場 充

(54)【発明の名称】 メカニカル式管継手

(57)【要約】

【目的】本発明は、比較的小型軽量で製造上も容易に行え、接続管の管端防食を図ったメカニカル式管継手を提供するものである。

【構成】接続するライニング钢管の呼び寸法より1ランク大きな呼び寸法のJIS B 2301ねじ込み式可鍛鉄製管継手用鋳造素材を用いて端部外面におねじと端部内面にパッキン室を設け内面に樹脂製の管端防食コアを設けた継手本体と、前記パッキン室に装着したパッキンと、該パッキンの端部側に装着した食い込み部材と、前記継手本体のおねじに螺合して前記パッキンと食い込み部材を接続管の外面に押圧するナットとからなる。



### 【特許請求の範囲】

【請求項1】接続するライニング钢管の呼び寸法より1ランク大きな呼び寸法のJISB2301ねじ込み式可鍛鉄製管継手に規定された管継手用铸造素材の端部外面におねじと端部内面にパッキン室と、内面を被覆した合成樹脂層と該合成樹脂層から端部側に延設して接続するライニング钢管の管端部を収容する管差込み部を設けた筒状体とからなる継手本体と、前記パッキン室に装着したパッキンと、該パッキンの端部側に装着した食い込み部材と、前記継手本体のおねじに螺合して前記パッキンと食い込み部材を接続管の外面に押圧するナットとからなることを特徴とするメカニカル式管継手。

前記パッキン室に装着したパッキンと、該パッキンの端部側に装着した食い込み部材と、前記継手本体のおねじに螺合して前記パッキンと食い込み部材を接続管の外面に押圧するナットとからなることを特徴とするメカニカル式管継手。

【請求項2】前記筒状体の端部外面に周方向全周に亘って自然加硫型の未硬化ゴムを装着して突条ゴムパッキンを固着し、接続管の内周面とシールするようにしたことを特徴とする請求項1記載のメカニカル式管継手。

### 【発明の詳細な説明】

#### 【0001】

【産業上の利用分野】本発明は接続管の内面が合成樹脂で被覆されたライニング管の管継手に関し、詳しくは管端部にねじを設けなくても接続が行え、またライニング管の端面の防食を図ったメカニカル式管継手に関する。

#### 【0002】

【従来の技術】従来例えば特開平3-288092号公報では図7に示す管継手が開示されている。このものは継手本体2の中央部に内周側に張り出す突起3を設け、この突起3にスリープ4を取り付け、接続管1を差し込んで圧入部材5を継手本体2に螺合締め付けることにより弾性シール部材6を接続管1の内面側で圧接するとともに抜止め部材7を接続管1の外周面で圧入して接続するものである。

#### 【0003】

【発明が解決しようとする課題】上記従来の管継手ではいずれもその管継手本体が管継手独自の寸法設定で形成されたもので、概して径方向及び長手方向ともかなり大きく、配管される管の外側に大きく張り出し、大きな配管面積を必要とし、また重量的にも施工上困難を伴うものとなっていた。更にその管継手独自の継手本体用素材を設ける必要があり、製造上も繁雑で原価高となっていた。本発明は上記の課題を解決し、比較的小型軽量で製造上も容易に行え、接続管の管端防食を図ったメカニカル式管継手を提供するものである。

#### 【0004】

【課題を解決するための手段】本発明の要旨は、接続するライニング钢管の呼び寸法より1ランク大きな呼び寸法のJISB2301ねじ込み式可鍛鉄製管継手に規定された管継手用铸造素材の端部外面におねじと端部内面にパッキン室と、内面を被覆した合成樹脂層と該合成樹脂層から端部側に延設して接続するライニング钢管の

管端部を収容する管差込み部を設けた筒状体とからなる継手本体と、前記パッキン室に装着したパッキンと、該パッキンの端部側に装着した食い込み部材と、前記継手本体のおねじに螺合して前記パッキンと食い込み部材を接続管の外面に押圧するナットとからなることを特徴とするメカニカル式管継手である。また前記筒状体の端部外面に周方向全周に亘って自然加硫型の未硬化ゴムを装着して突条ゴムパッキンを固着し、接続管の内周面とシールするようすることが出来る。

#### 【0005】

【作用】本発明は上記構成のごとく、JISB2301ねじ込み式可鍛鉄製管継手に規定された管継手用铸造素材を用いて形成してあるため、ねじ込み式管継手として铸造された素材を兼用して用いることができ、製造上の手間を大幅に低減出来る。また接続管の呼び寸法より1ランクだけ大きい呼び寸法の铸造素材を用いているので、外径寸法や長手寸法も比較的小さく納まり、軽量コンパクトなメカニカル式管継手に形成出来る。また内面に合成樹脂を被覆して接続管及び継手内面の防食を行っているので赤水が発生しない。このため配管された後の美観や配管スペース上及び施行上にも優れた管継手を容易に提供出来るものである。

#### 【0006】

【実施例】図1、図2は本発明の一実施例を示し、図において本体1はJISB2301に規定する寸法のねじ込み式管継手用铸造素材より形成され、本体1の端部外面におねじ11を設け、端部内面にパッキン室12を設け、中央部内面に合成樹脂を射出成型して樹脂被覆層13及び端部側に延びる筒状体14を設け、筒状体14の外周側に接続管の差込み口15を形成している。筒状体14の外径は接続するライニング钢管1の内径とほぼ同じ外径寸法で、この筒状体14の端部外周面に自然硬化型の未加硫ゴムを全周に亘って注入して固着させ、突条ゴムパッキン16を設けてある。

【0007】20は接続ライニング管1の外周面とシールするためのパッキンで、その端部に環状板21を介して食い込み部材22を装着してある。食い込み部材22は図3に示すごとく円周上的一部分に切り欠き23を有し、外側がナットの内面に押圧されて縮径するテーパ外面24で、内面に2条の環状食い込み突起25を設けてある。

【0008】30は継手本体10のおねじ11に螺合するナットで、ナット30にテーパ内面31を形成してこのテーパ内面31で前記装着した食い込み部材22のテーパ外面24を押圧し、食い込み部材22を接続ライニング管側と継手本体10の中央側へ押すようにしている。

【0009】次に接続について説明する。継手本体10の管差込み口15に接続管1を挿入すると、筒状体14に固着したゴムパッキン16が接続管1の内面で圧縮さ

れて接続管1と筒状体14との間がシールされる。また接続管1の外面にパッキン20と環状板21と食い込み部材22を装着してナット30を継手本体10に締め付けると、ナット30のテーパ内面31で食い込み部材が軸方向に押されてパッキン20がパッキン室内に圧縮されるとともに食い込み部材22が縮径されて接続管1の外周面に食い込み、接続管1の抜止めを行う。

【0010】上記継手本体10の寸法について、図1のソケット型における端面間寸法a及び図2のエルボ型における中心から端面までの寸法bは、図5、図6に示す。

JIS B 2301に規定されたねじ込み式管継手の端面間寸法L及びAと同じかそれ以内の寸法に形成してある。またおねじ11の外径寸法fについても上記JIS B 2301に規定されたバンド外径Fと同じかそれ以内の寸法に形成してある。

【0011】ここでJIS B 0203に規定された管用テーパねじの基準径の内径寸法とJIS G 3452に規定された配管用炭素鋼钢管の外径寸法を下記する。

管用テーパねじ		配管用炭素鋼钢管	
呼び寸法	内径寸法	呼び寸法	外径寸法
20	24.1	15	21.7
25	30.3	20	27.2
32	38.9	25	34.0
40	44.8	32	42.7
50	56.7	40	48.6
65	72.2	50	60.5

【0012】上記のことく、配管用炭素鋼钢管の外径とその呼び寸法より1ランク上の呼び寸法の管用テーパねじの内径寸法と比べると、管の呼び寸法32以下は管の外径寸法がテーパねじの内径寸法よりわずかに小さいことから、接続管の呼び寸法より1ランク上のねじ込み式管継手用鋳造素材の内径を一部切削加工して端部内面にパッキン室12を設け、上記構成の接続管にねじを設けないメカニカル式管継手を形成することが出来る。また管の呼び寸法40以上は管の外径寸法がテーパねじの内径寸法よりある程度小さいため、内面を被覆する樹脂被覆層13を端部側まで延ばして、図4に示すように樹脂被覆層13で管差込み口15とパッキン室12の部分を構成してメカニカル式管継手を構成することが出来る。

### 【0013】

【発明の効果】以上説明のごとく本発明のメカニカル式

管継手は、JIS B 2301のねじ込み式可鍛鉄製管継手に規定される寸法の鋳造素材を用いて形成することができる、従来のものに比べて非常にコンパクトで軽量な管継手が得られ、配管スペースが小さくて済み、また配管の施行が容易である。またねじ込み式管継手の鋳造素材を兼用して用いているので、管継手固有の鋳造素材を別に設ける必要がなく、製造上の手間が大幅に低減できる。更に赤水の発生がないので、製造上、施工上、及び施工後の使用中においても優れたメカニカル式管継手を得ることが出来る。

#### 【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の一実施例を示すソケット型のメカニカル式管継手を示す断面図である。

【図2】 本発明の一実施例を示すエルボ型のメカニカル式管継手を示す断面図である。

【図3】 本発明の一実施例の食い込み部材22を示す断面図である。

【図4】 本発明の一実施例のパッキン室の一部を樹脂被覆層で形成した継手本体10の断面図である。

【図5】 JIS B 2301に規定されたねじ込み式管継手のソケットを示す断面図である。

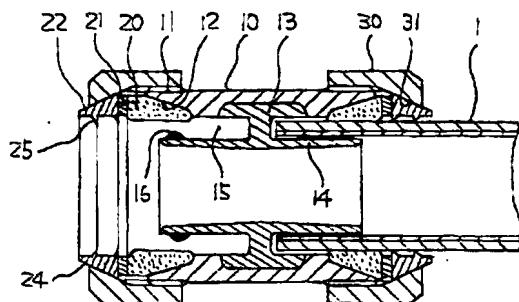
【図6】 JIS B 2301に規定されたねじ込み式管継手のエルボを示す断面図である。

【図7】 従来技術を示すメカニカル式管継手の断面図である。

#### 【符号の説明】

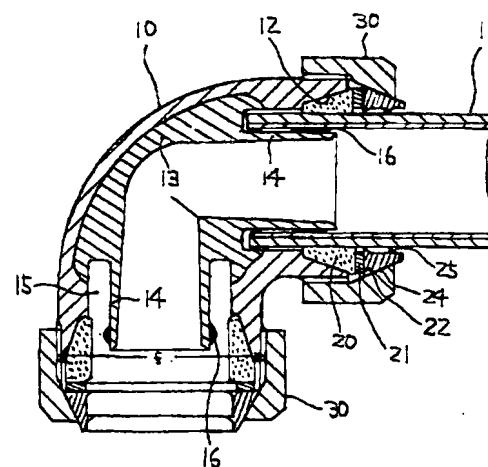
- 10 継手本体
- 11 おねじ
- 12 パッキン室
- 13 樹脂被覆層
- 14 筒状体
- 15 管差込み口
- 16 突条ゴムパッキン
- 20 パッキン
- 21 環状板
- 22 食い込み部材
- 23 切り欠き
- 24 テーパ外面
- 25 食い込み突起
- 30 ナット
- 31 テーパ内面

【図1】

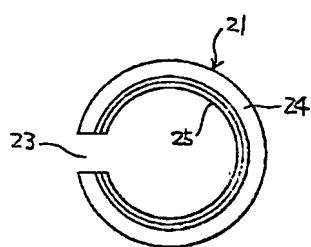


【図3】

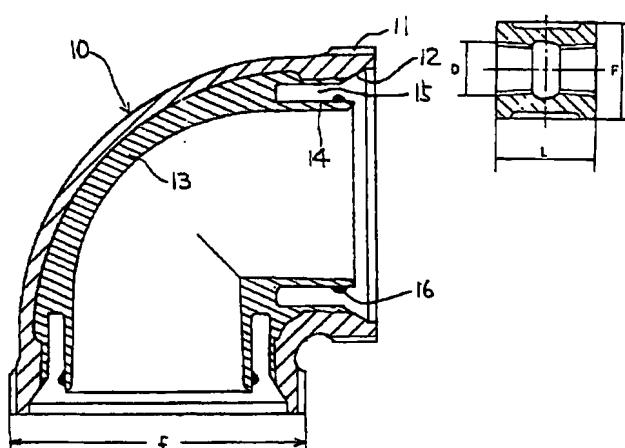
【図2】



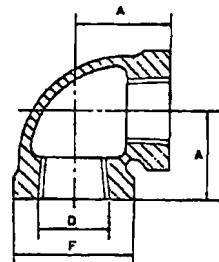
【図4】



【図5】



【図6】



【図7】

